

向陽高校
硬式野球部



Story of their Success

進学先

大阪教育大学
教育学部

藤村 紘太郎さん

進学先

鳥取大学
工学部

慈観 捷太さん

進学先

京都工芸繊維大学
工芸科学部

東中 康太さん

進学先

徳島大学
理工学部

廣田 史也さん

志望の学部や方向性を決めたきっかけなどは？

藤村： 中学生のころから先生って考えていました。家族の影響も少なからずあるかもしれないけど、先生以外の職業に興味がないっていうか…シンプルに学校が好き(笑)。

東中・廣田・慈観： (笑)

藤村： いや、でもマジでそうなんです。学校が好きで、行くのが嫌じゃないっていうか。働く職場として、例えば会社とかよりも学校で働きたいっていう。だから中学のころから今のところ先生かなって思っていたら、そのままきた。あまり他に惹かれなくて。教師もしんどいっていうのを踏まえても、そっちのほうがいい。

東中： 僕は、化学系でって思ったのは、本当にさかのぼったら小学生のときです。科学者になりたいって言うていたんです。中学では忘れていたんですけど。高校生になってアカデミーに来て、岡先生と面談をしているときに「お金を稼ぎたい」という話をして(笑)。そのときに化学系の話をしてもらって。で、僕は小学生のときから理科が好きで中学受験もしたし。物理よりは化学の方が好きだったので。だから化学系にしようって決めました。

慈観： 僕も化学系の話を岡先生から一緒に聞いたから、そっち系でって初めは思ったけど、ちょっと化学がでみなさすぎておもしろくなく

なってきたからやめようと思って。最終は消去法で土木系。大学に行って実験ばかりっていうのは別にしたいと思わないし、そういうのではないなって考えて、残ったのが土木系。興味もあるからいいかなって。

廣田： 僕はなかなか決まらなくて。でもなんか、実験とかは普通に楽しいって思いながらやっていたのと、他のことをやっている自分があまり想像できなかったの。



高1・高2で受講した「ハイブリッドクラス 英語・数学」※について教えてください。

※「ハイブリッドクラス 英語・数学」

向陽高校の進度・カリキュラムに合わせた授業。まず映像授業で知識の習得を図り、翌週の集団授業(ACクラスライブ)でその単元の演習を行う。演習には、向陽高校で使用する参考書・問題集を用いる。インプットとアウトプットを隔週で繰り返すことで学習効果を高め、知識の定着を図り、定期考査での高得点を目指すクラス。忙しいクラブの後も継続し勉強時間を確保できる。

藤村： 英語を受けていたのはデカかった。

東中： そう。僕らはたぶん全員英語が苦手だったと思う。5文型から怪しかった。

藤村： 英語に関しては、塾でしか勉強をしていないような状態だったから、受けていてよかったよな。

慈観： 数学もけっこうデカかったと思う。本当にためになった。

東中： Ryuさん(山本先生)がやってくれる定期テスト前のプレテストがよかったよな。

藤村： あれはよかった。定期テストはあれで取れていたようなものだったと思う。

東中： ハイブリッドクラスは、野球部の練習に合わせて時間とかも融通がきくっていうのも含めてよかったです。

藤村： 野球部で高1から塾で授業を受けているの俺らぐらいだったもん。自習とかじゃなくて、授業。だから、スタートダッシュとしてはよかったと思う。

東中： 確かに、高1・高2からちゃんと授業受けられるっていうのはデカイ。他の塾だったら時間的に無理だから。

藤村： でも、別にさ、野球部って塾に行っていないのが普通といえば普通だったよな。

慈観： そう。僕は、GES(小中学生部)に行っていたけど、高校入ったらとりあえず一回休むつもりだった。でも高校入学前に家族がアカデミー

のガイダンスを聞きに行って、もう申し込んできた、みたいな(笑)。

藤村: 俺も。アカデミーにいつかは入るけど、一旦休むっていうつもりだった。でも、まあみんな塾に行くものなのかなと思って入ったら、野球部はほとんど塾に行っていなかった。

東中: 僕は、小学生のときはGESに行っていて、中学では行っていなかったけど友だちに「高校では野球部クラスがある」って聞いていて。中学で塾に行っていなかった分、高校では行かないって思っていたから自分から親に言って入った。

藤村: でも最終的には、ハイブリッドクラスでやっていてよかったよな。だって、定期テストの赤点の量が違う。それがまあ普通とまで言わないけど、周りで赤点はザラにある感じだったしな。

慈観: その中で、テスト期間には絶対に塾に来るっていう習慣があったのがよかった。

藤村: そう。絶対に来てた。あれは大きい。

高3時のAcademy Campusのことについて教えてください。

廣田: 僕は家が遠いのもあって、アカデミーに入っただけで、なんかEQ(英語基礎カトレーニング講座「English Quest」:テストに合格するまで帰れないAC伝統講座)が本当に楽しかったなって。EQ自体が楽しかったっていうか、EQで知った単語や熟語が学校の授業とかでもよく出てきたりとかして。「あ、これ全部やったやつだ」みたいな感じになって。一気に「俺、英語できるぞ」って思えるようになった(笑)。

藤村: 確かに、出た時はちょっと嬉しかった。

慈観: EQはめっちゃやってました。真面目に。

藤村: マジ怖かった。

東中: 落ちたら、永遠、みたいな(笑)。

慈観: 僕、一回めっちゃ間違っ、地獄だった。

藤村: 俺ら、ああいうのに弱いよな。みんなの前で、早く終わらせたいみたいな感じで。

東中: あと、部活をしているときはEQも野球部用に時間調整してくれていたのもよかった。

慈観: 高3になって受けた英語(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略英語)は、初めは本当についていけてなかったです。本当に分からなかった。周りが高1高2からハイレベルクラスとかで受けていたけど、僕らは途中から入った感じになるし。だから自分で並行してやって、まあ言ってることは分かるなみたいなところまできた感じ。たぶん単語とかを高1高2でやっておいたほうがよかった。だから文章も分からなくて。

藤村: 英語は、僕自身が一番伸びた科目ではある。僕も本当に単語ができてなくて。最後の最後まで、ターゲット(英単語ターゲット(旺文社))は半分も分からない状況で。でも、ヨッシー(吉田先生)の英語を受けていたら、点数はもう絶対毎回上がるんですよ。本当に授業でやってもらってる解き方の部分だけで、ちゃんと点数を取れるようになったんだと思う。何が変わって取れるようになったかあんまり実感はないですけど。とりあえず問題を読んで、答えて。それが今までは間違っていたのに、全部正解を選べている、みたいな。教えてもらった解き方は、本当に分かりやすく、めっちゃ使える。めっちゃ簡単なことだけど、すぐ点に繋がる。英語を読む力がそんなになくてもすぐ実践できる解き方ばかりで。



藤村: 長沼先生の国語(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略国語)は、なんでなのかわからないけど、嫌じゃなかった。国語の勉強を初めてちゃんとしたって感じ。

慈観: 国語は授業を受けたら、めっちゃ読みやすくなった。それまで現代文って勉強するものだと思っていたなくて。ただ読むものだと思っていたけど、先生の授業を受けて、読み方っていうのがあるんだなって分かった。本当に解けるようになって、なんか、国語は世界が変わった。

東中: これを言っているのか分からないんですけど、最後まで僕はなんで解けているのか分からなかったんです。読んではいけるけど、文章の内容自体は覚えてなくて。でも長沼先生の解き方でやったら答えは合っていて。それがなんで合っているのかは分からないっていうのはずっと思っていました。なんで解けていたのか分からない。

慈観: でもなんか、先生の授業を受けて「あ、こういうところを見るんだ」みたいなのが分かっていったから伸びていった。だからよかったなって思います。



藤村: 数学は、得意なほうではあったけど、やっぱり過去問の解説を授業(ACクラスライブ授業:共通テスト攻略数学ⅡBC)でちゃんと受けられたっていうのはデカいかな。数学って解説を読むだけだったら分からないことが多いので。そこをちゃんと一個一個教えてもらえたっていうのはすごくよかった。

慈観: 僕は授業時間外に、Ryuさん(山本先生)によく質問に行っていました。数学も物理も教えてくれるから。数学とか物理って、解説を見ても、どういうことなんだろう?ってよく分からなくて。だから、ここ分からない、ここも分からないっていっぱい印つけてためておいて、で、Ryuさんがいるときにまとめて聞いて。でも教えてもらっても分からないときは、分かりませんって言ったら違う教え方でいろいろ教えてくれて。解き方一個でも、なんかいろんな方面から教えてくれるから、それはけっこう身についたなって思います。あと、記述。共テの勉強だったら記述は要らないじゃないですか。だから僕も、記述とかは別にいいかなって思っていたんですけど、Ryuさんが「こういうところは絶対書いたほうがいい」とか言ってくれて。それが最後、二次の勉強になったときに「あ、あのとき言ってたやつ」とか繋がって、そういうのが大切だったんだなって実感しました。

東中: 今村先生の数学(ACクラスライブ授業:難関大二次対策数学)は、他でやらないようなやり方ばかりで。本当に今村先生流っていうか、聞いたことがないようなやり方だった。自分は、こういう考え方で理解したかったんだっていうのが多かった。特に確率とか。あとは、微積のグラフの書き方とか記述のほうでも、やっぱり今村先生のやり方が分かりやすいなと思って優先してた。あと、質問をしに行っても、答えを言ってくれないんですよ。解く過程、途中の部分をちょっと言ってくれて、「一回やってみて」みたいな感じで。で、先生たちのいる机で解いて「どうですか?」ってその場で見てもらって。僕はそのやり方が、めっちゃ好きだったので。全部言われるよりも、自分で考えながらやっていって答えにたどり着くっていうほうが、芯から理解できるというか。だから、よく質問に行っていました。

あと、1Day特講(AC特別講座:代ゼミサテライン講座を一日で仕上げる)とかはめっちゃ好きだった。地理とか化学。特に地理は、僕が詰めこみタイプだったので。地図帳使っている書き込みながら、いろんな地理のことを一日で詰めこめるっていうのは、めっちゃ合っていました。そもそも宮路先生(宮路秀作 講師)の授業がおもしろかったの。授業でずっとGoogleマップを使うんです。そのGoogleマップを見ているのが、僕はけっこうおもしろかったの。それで地理はそれで伸びたかと。年末年始特訓(AC特別講座:代ゼミサテライン講座を一日で仕上げる)の直前テストの、化学と物理も解説がめちゃくちゃよかった。そこで最後の総復習ができたし、亀田先生(亀田和久 講師)の授業が好きだった。

廣田: 1Day特講は、あまりヤル気がでない時期とかに無理にでも一日集中できる日があったっていうのが、切り替えにめっちゃよかったかなって思う。

東中: 他には、岡先生がスケジュールを組んでくれたのはすごいありがたかった。毎回面談で、今後の日程を整理してくれるじゃないですか。それがめっちゃイメージしやすかったです。サテラインの講座を終わらせる時期を「これぐらいに終わったほうがいいよ」って言ってくれるので、自分もそこへ向かって調整できた。

廣田: 部活が終わって、本当に何から手をつけたいのかっていうのが分からないときに岡先生との面談があって。それで「この参考書やって」って言われて。まず最初にやることみたいなことがはっきりわかって取り組みやすかったなっていうのがあります。



後輩へのメッセージをお願いします。

慈観: やっぱり部活は大変だけど、単語とか文法とか基礎的なことはやっておかないと。いざ受験勉強ってなっても、知識が足りなかったら演習をやっても意味がないし。だからと言ってその時期から知識をつめようとしても、周りが演習を始めているから焦るし。やっぱりそういう基礎知識っていうのは絶対に最低限身につけておいたほうがいいかなっていうのはあります。知識がなかったら、学校の授業も聞いているだけになるので。始めは「まあいけるかな」「いつかは覚えられる」「まだまだ先は長いから大丈夫」って思うけど、そこで覚えておかなかったら、なんていうか普段の勉強の質も変わってくるのかなって思う。あと、志望校はちゃんと調べて、本当に自分が行きたいってところを考えたほうがいいと思います。僕は、とりあえずな感じで志望校を言っていて。別に具体的にしたいこともないし、すごくぼんやりした感じで。だから勉強をしてもなんか"このためにがんばろう"みたいな気持ちが無かったし、最終志望校も変えたから。だから、オープンキャンパスとかにも行って、「ここに行きたいからがんばろう」という意識は大事かなと思います。

廣田: 僕は"まあ部活終わってからがんばったら行けるだろう"みたいな、めっちゃ軽いノリでいたけど、実際は全くできなくて。変に自信を持つというか、余裕を持ちすぎるのは良くないなって思って。本当に初めから「俺やばいぞ」っていうぐらいの、なんかもう普通の努力じゃ全然追いつかないぞみたいな、そういう心意気で挑むほうがいいかなって思います。

東中: 僕はアカデミーに来ているっていうのが大事だったなっていうのは本当に思っていて。僕だけかもしれないですけど、塾がなかったら絶対勉強をしてないし、塾があるからこそいい意味で感じるプレッシャーとかも多かった。塾に行ってるのに、できないようじゃダメだなみたいなのもあったの。だから早い時期から塾に行っておいてよかったなって今は思います。

藤村: 確かに、塾に来た方がいい。勉強するのは一人だけど、いろんな人と一緒にここでやるからこそっていうのがあると思っていて。僕らはけっこうコンビニで長時間休憩っていう良くないこともしていたんですけど、まあそういう時間も、今となっては大事だったかなって思うし。あとは、やっぱりいろいろな友だちや、先生との関係も大事で。勉強は自分でするものですけど、理解を深めるためには、言い方が悪いですけど周りの人を使って。協力してもらうのが一番いいと思うので。なので、友だちと先生と一緒に頑張ることができるアカデミーっていう環境がよかったなって思います。

インタビューを終えて

毎週きちんと授業があり、テスト前には集中して勉強できる環境があり、わからないことがあればすぐに質問できる。硬式野球部の彼らは、こうした塾の機能を本当に上手に活用してくれていました。硬式野球を続けながら勉強を両立させることは決して簡単ではなく、彼らにしかわからない苦労や不安も多くあったはず。それでも今年の野球部は、明るく前向きに取り組む生徒ばかりで、その姿勢がとても印象的でした。この3年間で野球と勉強を通じて得た経験は、これからのみんなの人生の大きな糧になると信じています。



高校時代は、野球に高校生活のほとんどの時間を費やしてきました。だからこそ、大学ではぜひさまざまなことに積極的に挑戦し、多くの経験を重ねて、大きく成長してほしいと心から願っています。
合格おめでとうございます。素晴らしい大学生活を送ってください。

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司